

2019年5月期 決算説明会

(証券コード：7713)

 シグマ光機株式会社

2019年7月11日(木曜日)

目次

1. 2019年5月期 決算概要

管理本副本部長 兼 経理部長 石井 康之

2. 2020年5月期 事業戦略 及び 通期見通し

執行役員 管理本部長 菊池 健夫

3. 2020年5月期 営業戦略

営業本部長 森 政之

4. 質疑応答

世界経済の減速傾向を受けて、期後半から産業分野向け組込み用途が減少。FPD、半導体業界等の設備投資が減速。防衛や医療業界も一時的な抑制傾向。

【百万円未満 切り捨て】	17/5期 累計実績 (前年同期比)	18/5期 累計実績 (前年同期比)	修正予算 (前年同期比)	19/5期 累計実績 (前年同期比)	構成比	サマリー
売上高	7,846 (+5.1%)	8,956 (+14.1%)	9,090 (+1.5%)	9,047 (+1.0%)	100.0%	- 教育機関、公的機関向け研究開発分野は横ばいで推移 - 産業分野は投資意欲の減速傾向を受けて期初の堅調さから通期では横ばいで推移 - 欧州、アジアは堅調も、米国は一部の生産調整等で軟調に推移
営業利益	912 (+15.5%)	1,433 (+57.0%)	1,160 (▲19.1%)	1,123 (▲21.6%)	12.4%	- 原価は製品ポートフォリオ変化で粗利率低下 - 急激な需要変動による在庫評価損の計上 - 販管費はグループ各社での人件費の増加
経常利益	1,036 (+18.4%)	1,518 (+46.5%)	1,285 (▲15.4%)	1,246 (▲17.9%)	13.8%	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	746 (+25.1%)	1,005 (+34.7%)	835 (▲17.0%)	828 (▲17.7%)	9.2%	- 地域未来投資促進法適用による減税効果
1株当たり 当期純利益	99円11銭	138円49銭	117円89銭	116円93銭	-	
平均為替レート						
1USD	109.03円	110.81円	110.69円	110.69円		
1人民元	16.20円	16.74円	16.53円	16.53円	-	
1EUR	119.37円	129.45円	128.43円	128.43円		
1SGD	-	-	82.08円	82.08円		

売上高

【百万円未満切り捨て】

製品区分	17/5期	18/5期	19/5期		
	累計実績	累計実績	累計実績	構成比	前年同期比
要素部品事業	6,599	7,060	7,310	80.8 %	3.5 %
光学基本機器製品	2,340	2,533	2,496	27.6 %	▲1.5 %
自動応用製品	1,389	1,172	1,393	15.4 %	18.9 %
光学素子・薄膜製品	2,869	3,355	3,420	37.8 %	2.0 %
システム製品事業	1,271	1,949	1,820	20.1 %	▲6.6 %
光学システム製品	1,271	1,949	1,820	20.1 %	▲6.6 %
消去	▲24	▲54	▲83	▲0.9 %	-
合計	7,846	8,956	9,047	100.0 %	1.0 %

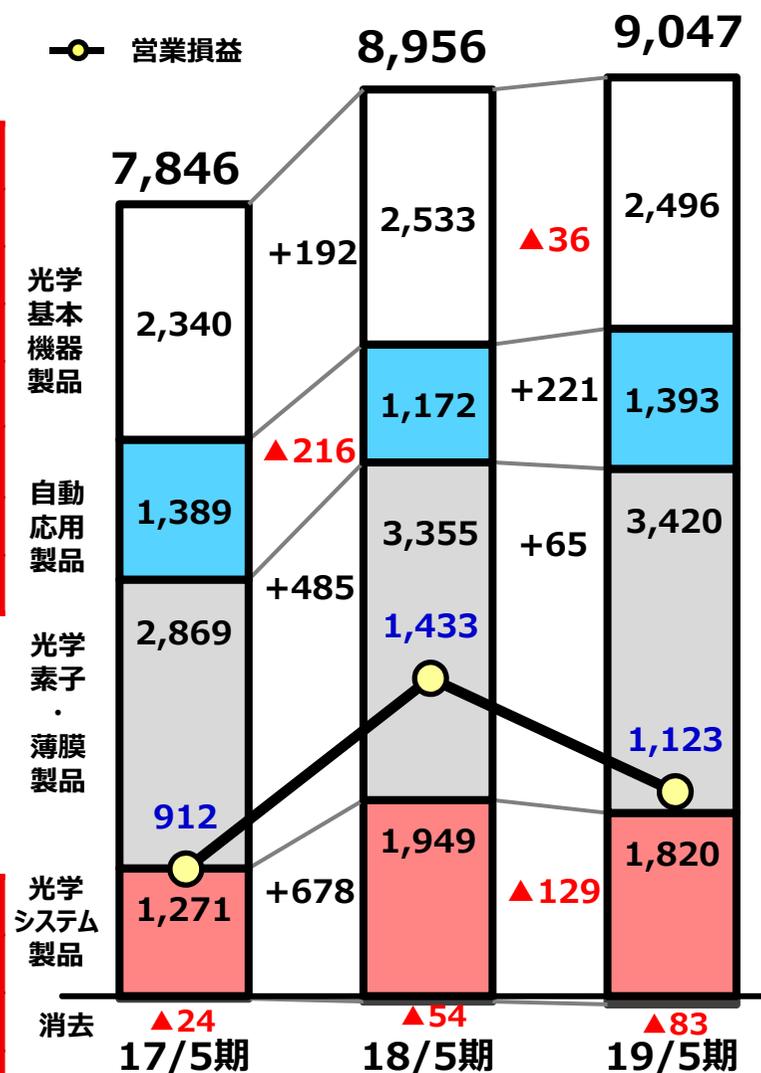
営業損益

【百万円未満切り捨て】

事業区分	17/5期	18/5期	19/5期	
	累計実績	累計実績	累計実績	前年同期比
要素部品事業	1,361	1,595	1,487	▲6.8 %
システム製品事業	23	370	185	▲49.9 %
消去	▲472	▲532	▲549	-
合計	912	1,433	1,123	▲21.6 %

売上高

【百万円未満切り捨て】



3

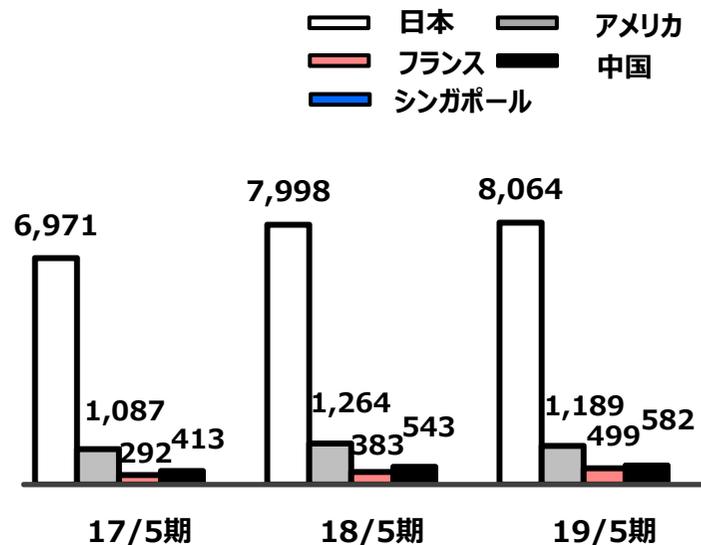
グループ所在地別売上高・営業損益(連結)

【百万円未満 切り捨て】	17/5期		18/5期		19/5期	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
日本	6,971	1,158	7,998	1,621	8,064	1,405
アメリカ	1,087	136	1,264	204	1,189	73
フランス	292	10	383	▲0	499	8
中国	413	55	543	98	582	109
シンガポール	-	-	-	-	-	▲6
消去 又は全社	▲918	▲448	▲1,234	▲491	▲1,288	▲466
合計	7,846	912	8,956	1,433	9,047	1,123
平均為替レート						
1USDドル		109.03円		110.81円		110.69円
1人民元		16.20円		16.74円		16.53円
1ユーロ		119.37円		129.45円		128.43円
1SGD		-		-		82.08円

売上高

※消去額を除く

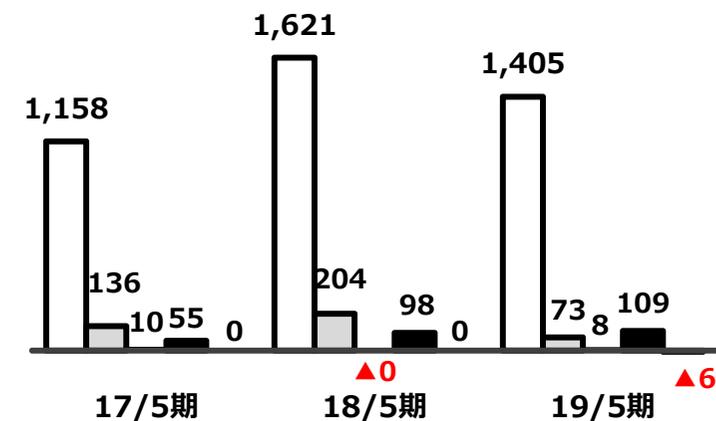
【百万円未満切り捨て】



営業損益

※消去額を除く

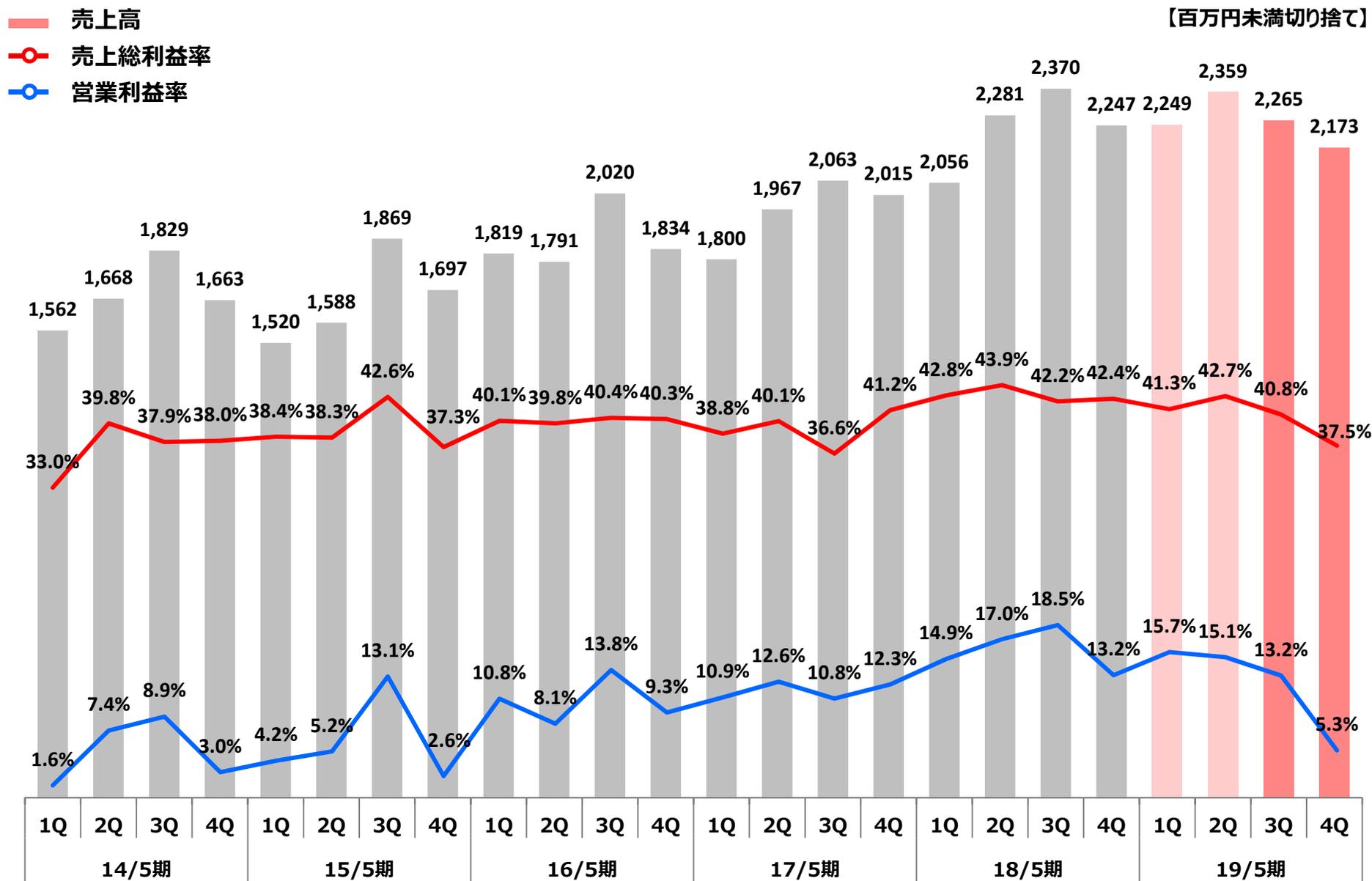
【百万円未満切り捨て】



世界経済は、緩やかな回復傾向から、リスク顕在化で減速傾向へ。

北米地域は、足元景気は堅調も、減税効果剥落や米中貿易摩擦の影響で鈍化傾向。
 アジア地域は、中国が内需振興も米中貿易摩擦の影響で減速感。周辺諸国にも影響。
 欧州地域は、学術分野、産業分野での高難度案件の取り込みを進めて市場深耕強化。

【百万円未満 切り捨て】	17/5期	18/5期	19/5期			サマリー
	累計実績 (構成比)	累計実績 (構成比)	累計実績	構成比	前年同期比	
売上高	7,846 (100.0%)	8,956 (100.0%)	9,047	100.0%	1.0%	
海外売上高	2,156 (27.5%)	2,573 (28.7%)	2,626	29.0%	2.1%	
アメリカ	956 (12.2%)	1,083 (12.1%)	986	10.9%	▲9.0%	- 期後半から産業分野の設備投資は鈍化傾向 - バイオ、医療分野の組込み用の光学機器製品は堅調も光学素子製品が軟調
アジア・ オセアニア	885 (11.3%)	1,077 (12.0%)	1,133	12.5%	5.1%	- 期後半から産業分野の設備投資は鈍化傾向 - FPD分野向け光学部品・ユニット製品は堅調から弱含みに変化、半導体分野向けは軟調
ヨーロッパ	270 (3.4%)	362 (4.0%)	468	5.2%	29.2%	- 高難度案件の取り込みを強化し認知度を向上 - 光学測定分野や医療分野の組込み用の光学素子製品や光学ユニット製品が堅調
その他	44 (0.6%)	49 (0.6%)	39	0.4%	▲20.9%	



売上原価率は前年同期比2.2pt悪化。

製品ポートフォリオの変化と高難度案件の積極的な取り込み等により材料費等が増加。技術トレンドのサイクル等で一部滞留在庫の評価損を計上。減価償却費は当期影響小。

【百万円未満 切り捨て】	17/5期		18/5期		19/5期			サマリー
	累計実績	構成比	累計実績	構成比	累計実績	構成比	前年同期比	
売上高	7,846	100.0 %	8,956	100.0 %	9,047	100.0 %	1.0 %	
材料費等	2,870	36.6 %	3,089	34.5 %	3,320	36.7 %	7.5 %	- 製品ポートフォリオの変化で外注費等が増加 - 高難度案件の取込等で材料費等が増加 - 一部の滞留在庫の評価損を計上
労務費	1,411	18.0 %	1,555	17.4 %	1,572	17.4 %	1.1 %	
減価償却費	232	3.0 %	240	2.7 %	222	2.5 %	▲7.2 %	- 大型装置の設備投資を実施も期後半に集中したため当期への影響は少ない
その他	259	3.3 %	237	2.7 %	256	2.8 %	8.0 %	- 支払派遣料や水道光熱費の増加
売上原価	4,773	60.8 %	5,122	57.2 %	5,371	59.4 %	4.9 %	
売上総利益	3,073	39.2 %	3,833	42.8 %	3,675	40.6 %	▲4.1 %	- 光学素子製品、光学システム製品などの産業分野向け製品の売上が伸び悩む

販管費率は前年同期比で1.4pt悪化。

営業展開強化により販売促進費は増加。グループ各社の人材採用で人件費が増加。新規設備投資、試験研究費は期初計画からの見直し・再計画等によって微増で推移。

【百万円未満 切り捨て】	17/5期		18/5期		19/5期		前年同期比	サマリー
	累計実績	構成比	累計実績	構成比	累計実績	構成比		
売上高	7,846	100.0 %	8,956	100.0 %	9,047	100.0 %	1.0 %	
販売促進費	307	3.9 %	386	4.3 %	419	4.6 %	8.5 %	- 高難度案件等の見積作業費の増加 - 企業訪問等の営業活動の強化
広告宣伝費	87	1.1 %	84	0.9 %	86	1.0 %	2.4 %	- 海外展示会の出展費用の増加
人件費	926	11.8 %	996	11.1 %	1,060	11.7 %	6.4 %	- グループ各社の技術営業人員の採用
減価償却費	49	0.6 %	46	0.5 %	56	0.6 %	20.6 %	- ITシステム資産の供用開始に伴う増加
試験研究費	272	3.5 %	300	3.4 %	319	3.5 %	6.4 %	- 研究開発案件の要求仕様を見直して 実施案件を絞り込むも前期比では増加
その他	518	6.6 %	586	6.5 %	610	6.7 %	4.1 %	- 旅費交通費や支払派遣料の増加
販売管理費	2,160	27.5 %	2,400	26.8 %	2,551	28.2 %	6.3 %	
営業利益	912	11.6 %	1,433	16.0 %	1,123	12.4 %	▲21.6 %	

【百万円未満切り捨て】	17/5期	18/5期	19/5期		サマリー
	期末	期末	期末	前期末比	
現金・預金	3,212	2,891	2,407	▲16.8%	- 設備投資の支払いによる減少
受取手形・売掛金	1,859	1,896	1,854	▲2.3%	
電子記録債権	445	808	708	▲12.5%	
棚卸資産	2,133	2,254	2,591	15.0%	
その他流動資産	1,335	1,248	1,326	6.3%	
有形・無形固定資産	2,927	2,898	3,591	23.9%	- 設備投資による増加
投資等	3,163	3,340	3,277	▲1.9%	
資産合計	15,077	15,339	15,757	2.7%	
支払手形・買掛金	993	1,091	483	▲55.7%	
電子記録債務	-	-	570	-	
短期借入金	180	199	180	▲9.1%	
その他流動負債	805	816	837	2.6%	
長期借入金	187	255	115	▲54.6%	- 借換のタイミングによる減少
その他固定負債	729	749	777	3.7%	
純資産合計	12,181	12,228	12,791	4.6%	- 利益剰余金の増加
負債・純資産合計	15,077	15,339	15,757	2.7%	

【百万円未満切り捨て】	17/5期 通期累計	18/5期 通期累計	19/5期 通期累計	サマリー (当期中の増減額の要因)
営業活動	826	986	869	- 売上債権の減額による増加 - 棚卸資産の増加による減少
投資活動	▲536	63	▲825	- 有価証券の償還による増加 - 有形/無形固定資産の取得による減少
フリーキャッシュフロー	290	1,049	44	
財務活動	▲122	▲941	▲420	- 長期借入金の返済による減少
現金及び 現金同等物の期末残高	2,799	2,859	2,516	

目次

1. 2019年5月期 決算概要

管理本副本部長 兼 経理部長 石井 康之

2. 2020年5月期 事業戦略 及び 通期見通し

執行役員 管理本部長 菊池 健夫

3. 2020年5月期 営業戦略

営業本部長 森 政之

4. 質疑応答

◆スローガン（2015年から継続）

「アジアNo. 1」から

「世界No. 1」へ

◆事業戦略 基本方針

- お客様満足度の最大化
- Q・C・D+R+Sを世界レベルへ
- 技術伝承・融合・総合力

光の時代の幕開け 社会課題を解決する光の活用に期待

量子科学
研究

低侵襲
治療

電子機器
微細化

5G
高速通信

クリーン
エネルギー

iPS細胞・
DNA解析

8K/4K
ディスプレイ

AI・IoT・
自動運転

宇宙観測

防衛

シグマ光機の強み

✓ 蓄積された
光学技術

✓ 知の融合による
対応力

✓ 国内における
ブランド力

持続的に成長する基盤づくりを継続

マーケット

- ソリューション提案の強化
- 当社ブランド海外認知度向上
- Webユーザビリティ&Eコマース

ものづくり

- 製品ラインナップの拡充
- 設備増強&先端生産技術
- 内製化&量産化&在庫管理

ネットワーキング

- グローバル連携体制の強化
- 協力パートナーと連携・共創
- 社内管理体制の強化

人の育成

- 技術融合&多能工化
- ダイバーシティの推進
- CSR経営の組織風土醸成

ターゲット市場の拡大と特注リピート・OEM案件の増加による増収増益計画

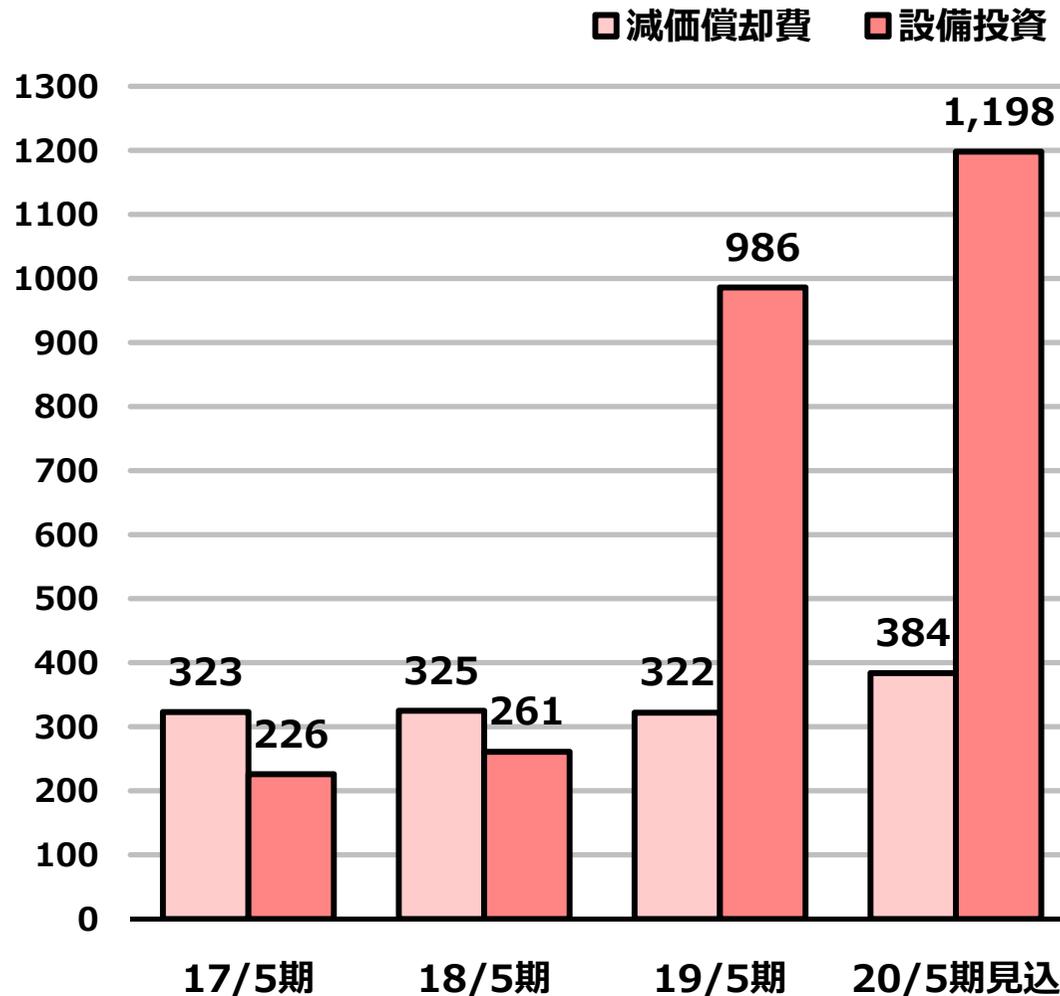
産業分野の投資マインドの緩やかな回復と並行したターゲット市場の深耕と新規創出の強化
 但し、利益面は研究開発投資や設備投資の増加を予算計画に盛り込んだため微増益の計画

【百万円未満 切り捨て】	18/5期		19/5期		20/5期				通期増減 (前年同期比)	
	通期実績	構成比	通期実績	構成比	上期予算	下期予算	通期予算	構成比	差額	増減率
売上高	8,956	100.0 %	9,047	100.0 %	4,540	4,690	9,230	100.0 %	182	2.0 %
営業利益	1,433	16.0 %	1,123	12.4 %	525	605	1,130	12.2 %	6	0.6 %
経常利益	1,518	17.0 %	1,246	13.8 %	580	675	1,255	13.6 %	8	0.7 %
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,005	11.2 %	828	9.2 %	365	475	840	9.1 %	11	1.4 %
1株当り 当期純利益	138円49銭	-	116円93銭	-	51円53銭	-	118円60銭	-	-	-

当期通期見込みの算定は、為替レート(期中平均)として1USドル=105.00円、1ユーロ=120.00円、1人民元=15.50円、1SGD=80.00円で計算しております。

設備投資・減価償却費

【百万円未満切り捨て】



補足説明

【百万円未満切り捨て】

◎主要設備投資

○17/5期

- ・光学素子設備増強投資 0.9億円
- ・検査測定機器投資 0.2億円
- ・基本機器設備増強投資 0.2億円
- ・情報システム投資 0.3億円

○18/5期

- ・光学素子設備増強投資 0.8億円
- ・研究開発設備投資 0.3億円
- ・情報システム投資 0.4億円
- ・上海シグマ光機設備投資 0.2億円

○19/5期

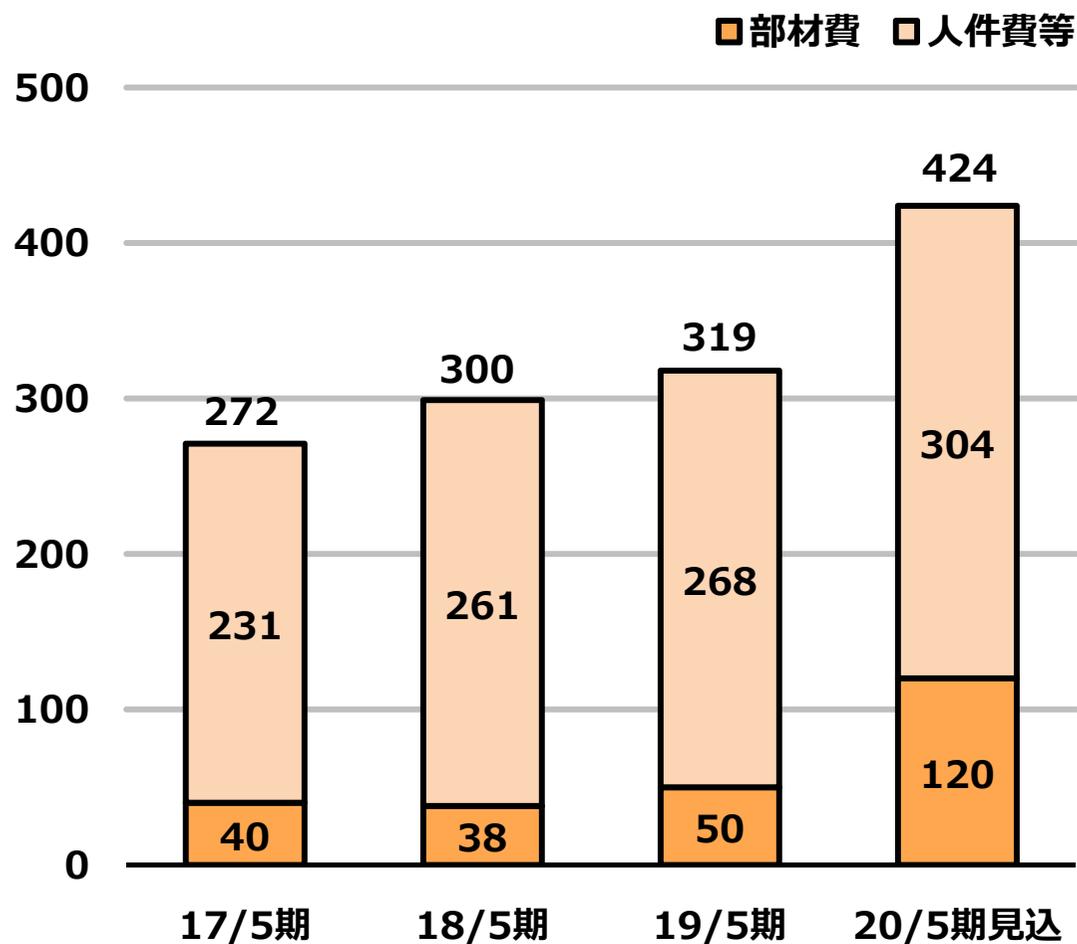
- ・日高新規工場棟建設 4.3億円
- ・光学素子設備増強投資 2.6億円
- ・オプトシグマヨーロッパ
新社屋購入 1.2億円
- ・情報システム投資 0.5億円
- ・オプトシグマ設備投資 0.3億円

○20/5期見込

- ・日高新規工場棟建設 6.4億円
- ・光学素子設備増強投資 1.6億円
- ・能登工場設備増強投資 0.8億円
- ・情報システム投資 0.3億円
- ・上海シグマ光機設備投資 0.3億円

研究開発費

【百万円未満切り捨て】



補足説明

【百万円未満切り捨て】

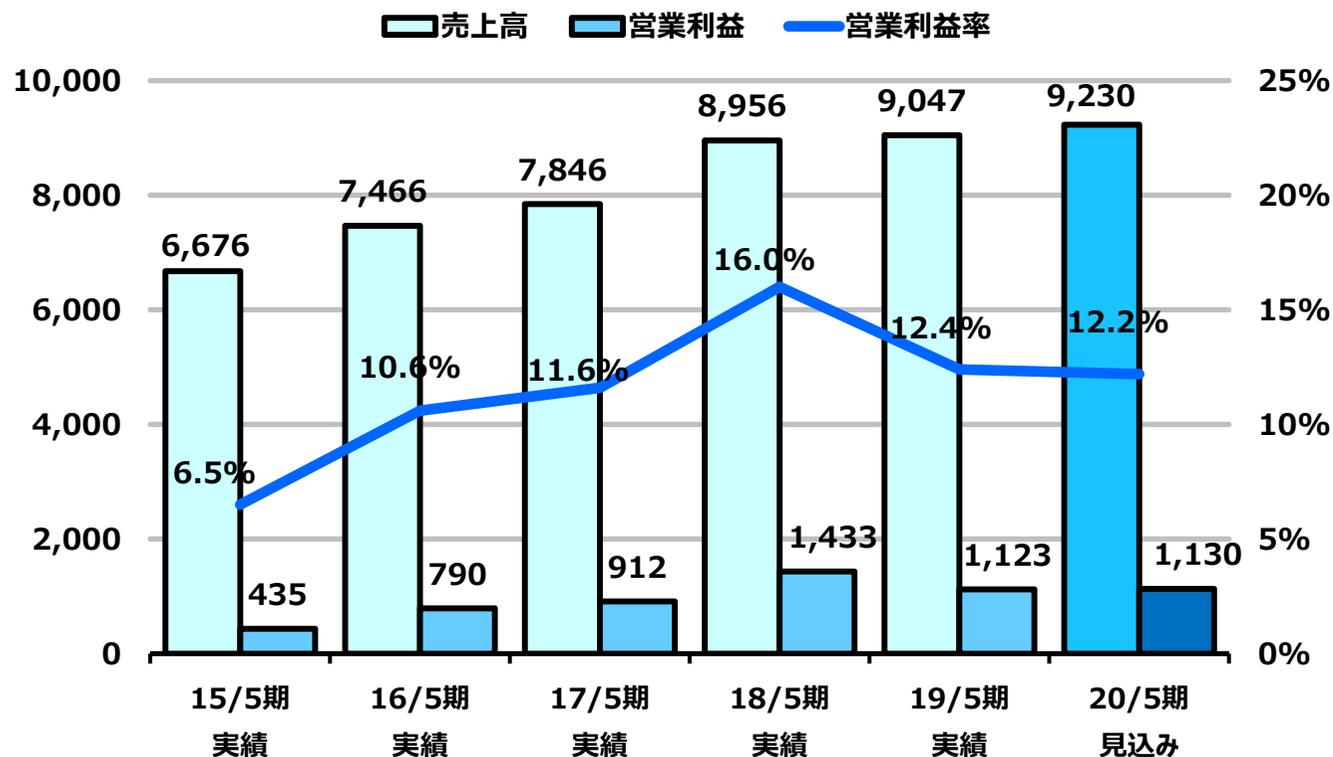
○ 部材費

	自社	産学官連携
17/5期	39	1
18/5期	38	0
19/5期	50	3
20/5期見込	120	28

○ 人件費等

	人件費等	研究開発費 (人件費等込) 売上高比率
17/5期	231	3.5%
18/5期	261	3.4%
19/5期	268	3.5%
20/5期見込	304	4.6%

【百万円未満切り捨て】



2020年5月期通期サマリー

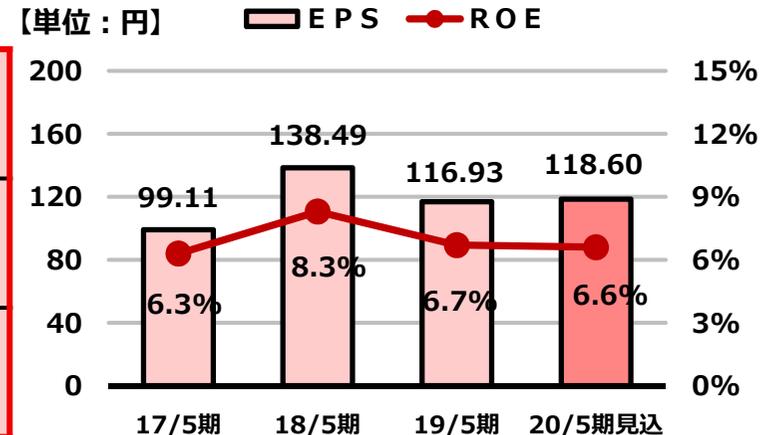
- ① 売上高の増加
 - 産業分野の投資意欲は徐々に回復
 - 海外売上高は引き続き増加見込み
 - ② 売上総利益率が若干改善
 - 製品ポートフォリオは横ばい
 - 材料費率・外注費率は抑制見込み
 - 設備投資による減価償却費の増加
 - ③ 販売管理費率の増加
 - 販売促進費・広告宣伝費の増加
 - 設備費・試験研究費の増加
- <販売展開の強化>
- 成長分野のリピート・OEMの取込み
 - 高付加価値光学モジュールの提案
 - ウェブ（Eコマース）での受注強化

* 強固な財務体質を堅持 (連結)

- ① 自己資本比率 18/5期 : 79.4% → 19/5期 : 80.8%
- ② 利益剰余金 18/5期 : 6,828百万円 → 19/5期 : 7,394百万円
- ③ 純有利子負債 18/5期 : ▲2,437百万円 → 19/5期 : ▲2,110百万円

連結EPS・ROE

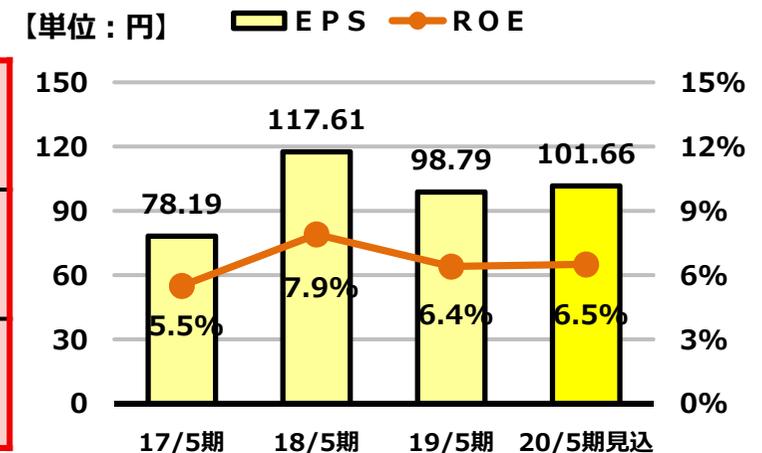
	17/5期 通期	18/5期 通期	19/5期 通期	20/5期 通期見込
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	746	1,005	828	840
1株当たり 当期純利益（円）(EPS)	99.11	138.49	116.93	118.60
自己資本 当期純利益率（%）(ROE)	6.3	8.3	6.7	6.6(※)



※2019年5月期末の自己資本額を元に試算しております。

単体EPS・ROE

	17/5期 通期	18/5期 通期	19/5期 通期	20/5期 通期見込
当期純利益（百万円）	588	854	699	720
1株当たり 当期純利益（円）(EPS)	78.19	117.61	98.79	101.66
自己資本 当期純利益率（%）(ROE)	5.5	7.9	6.4	6.5(※)

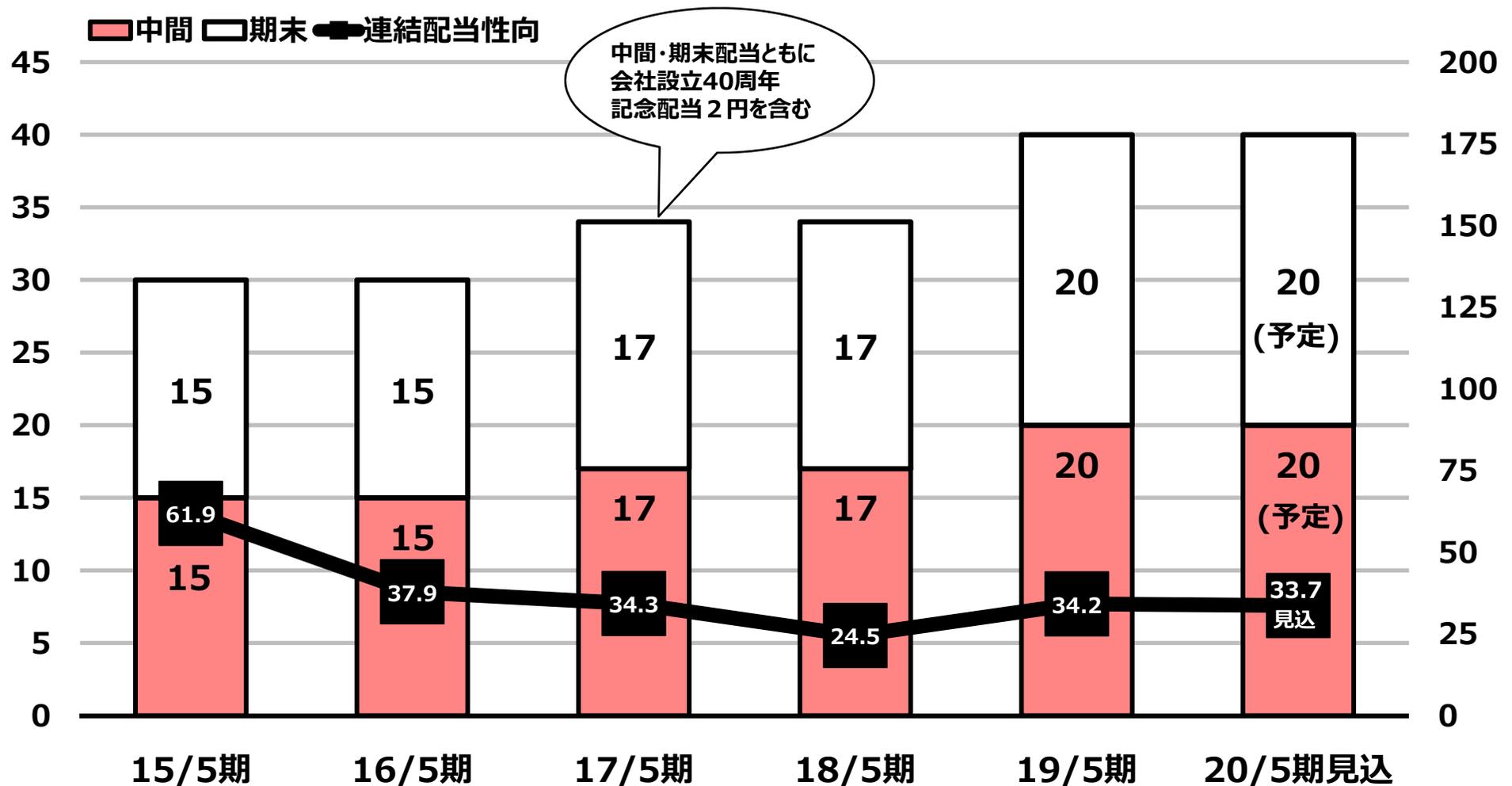


※2019年5月期末の自己資本額を元に試算しております。

継続的・安定的な配当を維持

【単位：円】

【単位：％】



目次

1. 2019年5月期 決算概要

管理本副本部長 兼 経理部長 石井 康之

2. 2020年5月期 事業戦略 及び 通期見通し

執行役員 管理本部長 菊池 健夫

3. 2020年5月期 営業戦略

営業本部長 森 政之

4. 質疑応答

1 マーケットと主要製品

- 官公庁・研究機関 : 『お客様の欲しいを形に』製品群・No.1 Products
・自動ステージ・コアユニット顕微鏡等

- スマートフォン関連 : レーザ加工機・対物レンズ・加工鏡筒
・自動ステージ等



- 半導体関連 : 検査用装置・高精度光学ユニット・自動ステージ等

- 車・センシング関連 : 生産設備用光学ユニット・光学モジュール



- 防衛・航空宇宙関連 : 耐放射線レンズ・光学ユニット・光学素子等

- 医療用フォトリソ関連 : 医療用レーザシステム・医療用光学システム等

- 通信関連 : ファイバー/導波路用自動調芯装置



- 国家PJ関連 : 光学ユニット・スーパーミラー・超高真空高安定ホルダ等

① OEM・ODM案件創出

② チャレンジ案件(オンリーワン製品)獲得

③ 新規潜在顧客層開拓による受注ベース底上げ

④ お客様満足度向上

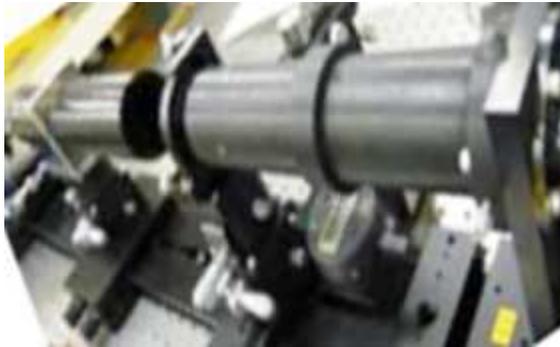
⑤ 魅力的な新製品投入・ラインナップ強化

- 海外含むお客様の事業所・研究室でPV展を実施。
開発設計部門・購買部門へ特注対応力と応用例を説明、
OEM・ODM案件を創出



カタログ製品やユニット実機を実際にご覧いただき、
リアルな環境でお客様が欲しい仕様を提案・具現化

■ 国内・海外から当社技術力へ期待した 国家PJ入札含む高難易度案件を具現化



高精度光学ユニット

設計技術
製造技術
評価技術

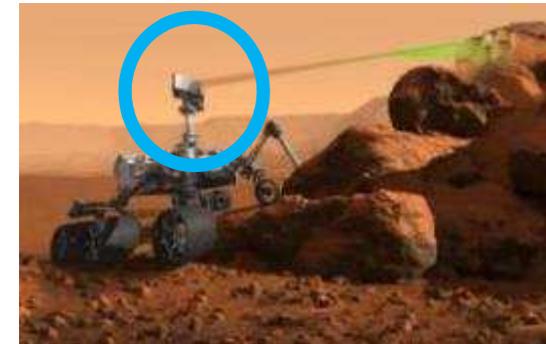
生産設備用OEM製品
として、海外含め
問い合わせ増加中



高精度オプティカル・キャビティ

スーパーミラー
接合技術

量子関連等、先端研究分野、
海外含め問い合わせ・受注中



©A.Maestas,NANL

NASA/CNES 「Mars2020計画」

火星探査機搭載予定の
SuperCam検出器用光学素子

※お客様による評価テストはクリア、
2020/7打ち上げに向け継続中
※各国から天文・航空宇宙向け
案件の引き合い増加

- WEB機能とお客様が必要な製品データの継続充実
- 専門分野の展示会での技術者から研究者へ製品説明、
新規お客様を開拓



製品の特長・目的をお客様へ直接分かりやすく説明、
製品ファン作り



Objectives

専門的な選定が必要な製品を
選定し易く！！

第4弾 “Educationパンフレット” Smart SKの発刊準備

第1弾 光学素子版が製品選定に役立ち、大好評

第2弾 OPTO-MECHANICAL版を発刊

第3弾 Microscope ミル

第4弾 Objectives

対物レンズを中心に加工機用途等、
アプリケーション別の選定ガイド
専門用語を技術資料として解説、
お客様が解りやすく

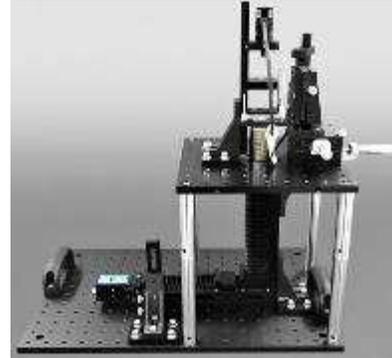
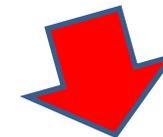
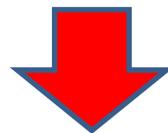
※近日発刊予定

■ 研究・生産用途向けに、お客様が自由に拡張可能でさらに使いやすくなる製品のラインナップを強化

研究者が目的に合わせ、自由に構成可能な製品を300種追加、さらに**製品ラインナップ**継続強化



生産用観察用途の幅が広がる製品



研究から生産用途まで、魅力的な新製品を順次追加いたします。

■ アジア地域（中国・韓国・台湾・シンガポール）

- ・半導体関連向け高精度光学ユニット等の需要増により大型案件の引き合い多数
- ・スマートフォン関連装置向け対物レンズ等は反動減、45期1Qで動きがある見込み
- ・世の中に無い、お客様が必要な高精度光学ユニット等の受注増加

■ 北米地域

- ・国家PJ等の高難易度チャレンジ案件の新規引き合い増加
- ・バイオメディカル・バイオフォトニクス用光学ユニットの大口OEM受注開始
- ・防衛/航空宇宙分野開拓に向けITAR登録準備、同マーケットからの案件創出

■ EU圏

- ・国家PJ 等の大口・高難易度チャレンジ案件の実績増加と引き合い増加
- ・レーザ装置等への組込み用OEM製品の実績増加
- ・バイオフォトニクス用光学システムの実績増加

3 海外マーケット概況-2

■ シンガポール現地法人会社営業活動開始 (OptoSigma Southeast Asia Pte. Ltd.)

開設日 2019年2月11日

営業開始日 4月2日

シンガポールを中心に、
現地人脈を活用し、東南アジア地域の
お客様対応力と案件創出強化



シンガポール共和国と東南アジア地域

バイオメディカル・レーザ & フォトニクス・精密工学・航空宇宙・半導体関連の
大手企業研究開発部門および製造拠点が集中。

最先端研究・開発案件から

OEM・ODM案件の案件創出

① 半導体設備用 高精度光学ユニットの需要増

- ・高付加価値・高難易度な高精度光学ユニットの引き合いが増加。
- ・既存のOEM案件は45期3Q以降回復見込み。



② 医療用レーザーシステム・バイオフォニクス用ユニットの受注堅調・維持

③ レーザー加工機用組込製品の受注が弱含み傾向

- ・高難易度レーザー加工機用光学ユニット・
自動ステージ・光学素子等引き合い多数
- ・一部のお客様は不透明感



④ スマートフォン・テレビ用設備投資が不透明

- ・生産設備用対物レンズは、44期下期からやや減速感。
- ・45期1Q以降の投資は徐々に回復見込み。



⑤ 防衛/航空宇宙関連向け光学ユニット・光学素子のリピート受注

⑥ センシング関連向けOEMレーザーユニットの受注開始見込み

■量子関係等の先端研究分野へ高精度・高分解能な新製品を投入

① ナノオーダー位置決めフィードバックステージシリーズ

1nmの位置決めが可能、量子関連・半導体・通信・材料分野の研究用途、技術応用によるお客様に魅力的な提案・案件創出



ナノオーダー位置決め装置



専用コントローラ

1nm・5nm・10nm・サブミクロンまでラインナップ、お客様の要求に合った製品提案

② 高分解能・高安定製品

高付加価値な新製品を市場投入、先端研究分野研究者への製品提案



目次

1. 2019年5月期 決算概要

管理本副本部長 兼 経理部長 石井 康之

2. 2020年5月期 事業戦略 及び 通期見通し

執行役員 管理本部長 菊池 健夫

3. 2020年5月期 営業戦略

営業本部長 森 政之

4. 質疑応答

ご清聴ありがとうございました。

本説明会にて提供させていただいた情報および本資料内に記載されている当社グループに関する業績予想、方針、経営戦略、目標等に関しては、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。

よって、今後様々な要因により将来の見通しに関する記載事項や予想数値等が変化することが考えられます。すなわちこれら記載事項や予想数値等はその性質上、将来そのとおりに実現するという保証は致しかねますのでご留意ください。